

令和7年度第2回高知県元気な未来創造戦略推進委員会

日時：令和8年2月5日（木）13:30～16:00

場所：高知会館2階「白鳳」

出席：委員16名中13名出席（オンライン出席3名及び代理出席1名を含む）

議事：（1）元気な未来創造戦略の全体像及び令和8年度のバージョンアップのポイント（案）について
（2）各政策・条件整備の令和8年度の取り組み（案）等について

1 知事開会挨拶

○現状認識

- ・出生数は過去最低を更新する見込みであり、若者の社会増減も依然厳しい状況。
- ・これは、大都市の雇用吸収力が高まっていることが背景にあると考える。
- ・しかし、最近の指標を見ると、こうした厳しい状況に底打ちや反転の兆し。
- ・今年の出生数は減少見込みであるものの高知県全体ではほぼ横ばい、高知市では反転増。
- ・社会増減は、減少数が前年より縮小。

○今後の目標

- ・上記の現状を踏まえ、市町村、事業者の皆様と一緒に、人口減少の克服に向けた道筋を明らかにする、とりわけ、34歳以下の若年人口の減少をできるだけ早く食い止める。

4つのバージョンアップのポイント

- ①高付加価値型経済への転換：県内産業を強化し、高付加価値を生み出す経済構造への転換を図ることで若者の所得向上につなげる。
- ②多様な人材が活躍できる環境の実現：働き方改革の推進による仕事と家庭を両立できる環境の整備。また、こうしたライフスタイルを強みとして、大都市圏からの移住を促進。人に優しい社会の実現を目指す。
- ③「若者に選ばれる高知」を目指した移住・定住対策の強化：特に転職時の転出抑制に向けて、更に対策を強化する。
- ④ニーズに応じた出会いの機会の拡充とライフデザイン支援：民間のマッチングサイトとの連携やライフデザイン講座などといった新たな施策により、取り組みを強化する。

令和8年度予算編成

- ・国の重点支援交付金を活用し、高付加価値を生み出す経済構造への転換、男性育休取得促進などの支援策について、質・量ともに拡充する。

○結び

- ・今後の取り組みについて、県民の皆様には、不安感、抵抗感が伴う面もあるかと思うが、人口減少の中で持続可能な地域社会を実現し明るく元気な未来を創っていくためには、我々自ら生まれ変わる勇気が必要。
- ・本日の各委員の皆様からのご意見を踏まえ、人口減少対策をしっかりとバージョンアップする。

2 各委員ご意見

○小田切委員（コメント紹介）

子育て支援

- ・補助金がなくなると、他の自治体へ移ってしまう傾向がある。自治体は長期的な視点で住民の各ライフステージに寄り添う施策が必要。

関係人口の創出

- ・高知県が行っている関係人口創出プロジェクトの取り組みを評価する。今後は、取り組みの輪を広げてほしい。また、受入れる地域側が、自分たちも楽しむ「寛容性」が重要である。

キャリア教育

- ・中山間地域の高校に特化した学科（例えば1次産業やジビエの処理・加工）があれば、全国に誇れる特色になるのではないか。

若者に選ばれる高知

- ・若年人口の増加を目指す短期的な対応として、特に重要。特に、丁寧かつ豊富な情報によるマッチングサポート体制の構築を期待する。
- ・現在、県内企業への転職情報の流通がパーソナルレベルであるというアンケートの結果によれば、マッチングサポートによる「伸びしろ」が期待できる。
- ・今回の転職アンケートは、様々な有効情報が含まれている。さらなる分析と施策への反映を期待。

4 Sプロジェクト

- ・4 Sプロジェクトは4つの「S」のバランスを含めて重要。
- ・その際、デジタル化やAI利用促進の視点はさらに充実できる可能性がある。
- ・大胆な未来像を意識した進化系の4 Sプロジェクトを議論し、将来の実現の準備をする段階ではないか。

○越塚委員

デジタル技術

- ・高知県のデジタル基盤は国内でも競争力があるため、強みとして活用すべき。（「SAWACHI」「NABRAS」など）
- ・AIの活用は必要不可欠であり、注力すべき分野である。
- ・デジタル人材の育成やデジタル基盤の整備は、すぐには成果が見えにくいだが、県が継続して取り組むべき重要課題。民間では難しい分野のため、行政の工夫と継続的な支援が必要。

大学との連携

- ・産業活性化において、大学との連携が世界的に重要視されている。
- ・高知県においても、大学は若手人材の宝庫であり、産業界のイノベーション創出に不可欠。
- ・大学と産業界が連携し、若者の活躍できる仕組み（産業プラザなど）を構築し、人材育成やイノベーション創出を推進すべき。

○天野委員

R7 住民基本台帳人口移動報告結果

- ・高知県の人口動態に「非常に良い兆候が出てきた」。

- ・転出の男女差が、これまで女性が男性の2倍近く減少していた状況が1.05倍に抑えられている。
- ・特に女性の転出超過が抑制（対前年比80%水準）されており、人口再生産の観点から高く評価。
- ・男性の転出は増加傾向にあるが、女性の転出抑制が全体の改善に大きく貢献。

結婚支援

- ・高知の女性は積極的な県民性を持っているので、高知にとどまりたいと思えるような施策を引き続き取り組んでもらいたい。

若者（特に女性）のための就職支援

- ・IT企業やコンテンツ産業の誘致に関連して、徳島県神山高専の事例にもあるとおり、情報分野への注力は、若い女性の誘致に効果的。
- ・大学生の県内就職の促進として、インターンや体験バイトなど東京圏の企業が行っている戦略の導入が必要。
- ・転職対策において、転職者の「ステップアップ」を前提とした受け入れを重視すべき。特に女性は給与の面ではなく、自身が苦痛を感じない職場へ転職しており、そこは高知県の中小零細企業でも、都会と同様に整えることができる。

外国人誘致

- ・熊本県の事例から、外国人の誘致は日本人の若者の県外流出を招く可能性があるため、慎重な検討を求める。

プレコンセプションケア

- ・「女性のため」の取り組みと誤解されがちだが、老若男女の健康増進のための知識であり、誤解が生じないように配慮を求める。

働き方・子育て支援

- ・三世代同居支援について、女性側の両親であればよいが、男性側の両親との同居は女性の負担になる可能性があるため注意が必要。
- ・男性育休の取得促進は重要だが、女性の経済力向上とセットで考えるべき。男性ばかりに負担が偏らないよう、夫婦のバランスを重視した支援が必要。

若者移住に向けた仕組み

- ・若者を呼び込むためには、若者を起点とするべきであり、若者が若者を呼ぶ仕組みを考えてほしい。

○森岡委員

継続的な出会い・交流の場

- ・「NEW STEP」などの社会人が交流できる継続的な出会いの場は非常に良い。単発でなく、継続的な出会いの機会の創出が必要。
- ・地元青年団体や若い世代との連携を強化し、継続的な交流の場やキャリア教育（地域への愛着醸成）を通じて、若者の地元定着を促すべき。

婚活イベント

- ・飲み会形式での婚活イベントの現場を運営している熱心なつなぎ役がいるが、飲み会の公費負担は難しいのが現状。行政からの直接的な補助は難しくても、何らかの形でサポートできる仕組みの検討を求める。

多文化共生

- ・外国人との交流機会は、地元の若者が地域に関心を持つきっかけにもなるため、継続的な支援を求める。
- ・外国人が異国の地で働いていくうえで、精神的なサポートも重要。

○小林委員

関係人口の創出

- ・少子化対策において、地域と緩やかに繋がる「関係人口」の創出が重要。
- ・「関係人口」の取り組みを進める上で肝心なのは、受け入れ側の寛容性、心の過疎化対策。
- ・若者、女性、移住者を受け入れる就業環境、失敗を恐れない文化づくりが重要。

若者の主体性

- ・人口戦略フォーラム in こうちにおいて登壇していた若者の志ある活動が印象的であった。
- ・若者が自ら楽しんで活動できる環境が、地域の活性化に繋がる。しがらみを乗り越え、移住者と地域を繋ぐ若者の役割の重要性を感じた。
- ・また、高知県への移住者の事例もあり、都会のマネジメント力と、地方の想像力が創造効果を生むという事例を聞き刺激を受けた。
- ・様々な経験を持っている方を呼び込めるような仕組みづくりがとても大事だと改めて感じた。

子育て支援

- ・高知県の「共働き・子育て」の支援策は充実しているが、固定的な性別役割分担意識や実際の育児負担の偏りはまだ残っている。
- ・子どもを中心とした視点を重視し、地域全体で子育てを支える体制づくりの推進が必要。

○村木委員

人口減少対策の評価

- ・今回の女性の転出超過抑制に関して、高知県の人口減少対策の努力を評価。特に女性の転出超過抑制や両立支援の進捗に注目。

情報発信と若者定着

- ・高知県が取り組む施策が、県内の若者や県外にいる高知出身者に十分に伝わっているかが課題。
- ・高校卒業時に県外に出るタイミングで連絡先を把握するなど、より早い段階での情報発信などの取り組みが重要だが、実施していることがあれば教えてほしい。

新たな視点の創出

- ・行政の努力に加え、大学、民間、他分野との連携をさらに強化したり、若者の意見を中心にするなど新たな視点を創出するための工夫を求める。

若者が考える仕事の価値

- ・若者が仕事において重視する「社会的価値」「楽しさ」「ステップアップ」を考慮すべき。
- ・「社会的価値」に関しては、高知の産業や企業の「社会的価値」をPRしていくことが重要。フードテッククラスターの形成や、農福連携の取り組みを強調していくとよい。
- ・「ステップアップ」に関しては、福祉分野の連携法人による人材育成・ステップアップの仕組みを他分野にも広げることを提案。企業間の連携による人材育成に期待。

○須藤委員

現状認識

- ・女性の転出超過抑制に関し、「兆しが見えてきた」ということだが、目標達成にはまだ遠い現実を直視すべき。外部から見れば、状況は依然として厳しい。

移住促進

- ・東京圏での生活コストの上昇や通勤の負担など、都会生活の不便さと比較した際の、高知での異なる価値観での生活をアピールすべき。
- ・一方で、若者がやりたいと思える仕事や最低限の年収、空き家を活用した住宅支援なども重要。
- ・リモートワークができる企業の誘致など、多様な働き方を促進し、雇用の絶対数を増やすべき。

大学との連携

- ・県内大学と連携し、社会人教育やスキルアップの機会を提供すべき。大学の生き残り戦略としても、地域と連携した教育プログラムの継続実施が重要。

出会いの機会

- ・大規模な婚活イベントだけでなく、趣味を通じた継続的な交流の場を支援し、自然な出会いを促進すべき。

データ分析

- ・統計データにおいて、パーセンテージだけでなく、必ずそのデータのサンプル数について併記するよう求める。信頼性のある情報提供の重要性を強調する。

ペーパーレス化

- ・(今回から試験的に導入された) 会議のペーパーレス化については賛同するので、ぜひ進めて欲しい。

○上村委員

コミュニケーション能力

- ・婚活で男性が女性と話せないなど、若者のコミュニケーション能力不足が散見される。義務教育段階からコミュニケーション能力の醸成に取り組むことが重要。

人材確保

- ・事業者の人材確保の課題に対し、軽度障害者の雇用に力を入れることも重要。
- ・外国人材の受け入れについても、就労後に生計を立てることができ、地域への定着を促すような形が望ましい。

キャリア教育

- ・子供たちが地域の産業や魅力を理解し、将来的に地元に戻ってくるきっかけとなるよう、教育現場での取り組みを継続すべき。

○宇都宮委員

データ活用

- ・人口移動のデータをさらに細かく分析し、どの市町村の人がどこへ転出し、どういう理由で離職したのかなどを精査し、こうしたデータを元に、高知に定着してもらうためのきめ細やかな施策を検討することが重要。
- ・人口が少ない高知だからこそ、一人一人にフォーカスした取り組みができるのではないかと。

子育て支援

- ・産後ケア利用率が上がっているが、産後ケアを必要とする理由を掘り下げて分析すると、産後ケア以外に必要されている支援が見えてくるのではないかと。
- ・子育て支援を充実させ、子育てする人たちに優しい高知県のイメージを強化することが重要。

移住政策

- ・高知県において、外国人材の受け入れは、経済構造の点から必要不可欠。

- ・外国人材を受け入れ、どのように高知に定着させるかを考えていくことが重要。
- ・大学生が中山間地域に支援に行く県の取り組み（いこうち！）は、素晴らしい取り組み。人を呼ぶ政策につなげて欲しい。

若者の県内定着

- ・高校と大学の連携をこれまで以上に強化し、例えば附属高校の設立など、県外へ流出する若者を県内に繋ぎとめる仕組みが必要。

高知県の魅力の発信

- ・県外で高知のことを知らない人が多い。高知のことを知ってもらう努力が必要。

○森田委員

女性へ「投資」する社会の実現

- ・古い価値観（家族観を含む）を払拭し、女性が住みやすい社会をつくるために女性に「投資」をする必要がある。「女の子だから」という理由で、就業や進学等のチャンスを見送ることになった女性がいるはずだ。

若い女性の意見を聞く

- ・女子高校生は事務職だけでなく、データサイエンティスト、薬剤師、助産師など多様な夢を持っている。若い女性の意見を積極的に聞いていただき、高知にいたい、又は戻ってきたい、と思ってもらえるような施策を考えてほしい。

女性の賃金向上

- ・若者の所得向上には、女性の賃金向上も不可欠。
- ・特に医療や福祉分野など、高知県で女性が活躍している分野での賃金向上に向けた努力が必要。

女性が働きやすい環境の整備

- ・県は、農業、林業、水産業、建設業などの分野での女性活躍を推進しているが、これらの分野での男性育休取得率の低さが目立つ。こういった職場での男性育休の取得率向上を目指さなければ、女性が働きやすい職場にはならない。
- ・子育ては育休取得後も続くため、育休だけでなく、その後の日々の育児負担をサポートできる制度が重要。まずは有給休暇をとれることが必要ではないか。

○山崎代理

現状認識

- ・高知県の人口減少の現状は厳しいが、県による「人口減少対策総合交付金」等の手厚い支援に感謝。各市町村も交付金を活用し、積極的に人口減少対策に取り組んでいる。

元気な未来創造戦略のバージョンアップへの期待

- ・令和8年度の4つの強化のポイントに注目。
- ・各市町村の実情に応じた施策を推進し、県ともさらなる連携強化を図りながら取り組みたい。

○森下委員

企業支援

- ・生産性の向上など、企業の賃上げ支援はぜひ継続していただきたい。

フードテッククラスターの形成

- ・高知の温暖な気候、環境制御技術を活かしたフードクラスターの形成は、ぜひ成功させてほしい。

官民合同異業種研修の実施

- ・経営者協会主催で女性職員向け交流会を実施した際、参加した女性から、キャリアアップの上で非常に良い刺激になったという声があり、異業種間の交流は推進すべき取り組みである。

宿泊業の誘致

- ・宿泊業の誘致を推進とあるが、これは今ある宿泊施設以上にさらに増やしていくということか。

起業促進

- ・県内の機関が提供する支援メニューを一元化し、利用者目線での情報を発信とあるが、その中に金融制度に関しても組み込んでいただきたい。

新事業展開の促進

- ・新事業展開のサポート機能を強化するためのコーディネーターを配置とあるが、具体的にどこに配置するのか、また、企業に対するプッシュ型のサポートとは、具体的に何を行うのか教えていただきたい。

外国人交流支援

- ・交流施設の整備だけでなく、外国人が孤立しないように交流できる場をつくろうとする方に対しても支援をしていただきたい。

子ども食堂への支援

- ・拠点が減っていることももちろんだが、食堂への食材の提供が少なくなっている現状も併せて県から情報発信してほしい。

男性育休

- ・県内企業における男性育休取得率が上昇しているとのことだが、具体的に起こしたアクションを聞きたい。

地域みらい留学

- ・地域みらい留学の卒業生のその後の進路や県内への定着状況を教えてほしい。

○石塚委員

連携法人と大学連携

- ・県内の中小零細企業が採用・人材育成において苦戦する中、連携法人によってそれを実現できるととても良い。
- ・最近では、企業と大学との共同研究講座や寄付講座が増えてきており、学生、社員の育成、新規事業の創出につながっており、さらに参加する高校生の県内就職につながるケースもある。こうした取り組みを県内で展開していけると良い。

フードテッククラスター

- ・高知の食の魅力をさらに高めるため、食品産業における人材育成が重要となる。土佐FBCが貢献できるのでは。

高等教育機関と連携した学生の受け入れ

- ・大学と連携して高度外国人材の受け入れ、中高生を対象とした大学ツアーなど、いろいろなことができる。具体的に何をしていくのか、高等教育機関と連携で、今後詰めていただきたい。

○西山委員長

- ・いただいた意見に対しては、後日議事録、QAで反映していく。
- ・フードテッククラスターやマリンイノベーションなど、イノベーションを生み出すインフラの整備

に期待する。ぜひ、スペースポートと小型衛星も視野に入れていただきたい。

3 知事閉会挨拶

○ご意見への所見・感想

データ分析と今後の施策強化

- ・住民基本台帳人口移動報告の分析結果による、転出者数の男女比率や女性の転出規模については改善の方向に向かっているという天野委員からのご意見は大変心強い。
- ・これまでの取り組みの効果を分析し、効果が認められる事業は継続的に強化していく。特に、本日いただいた人と人との繋がりをつくる事業は、継続的に取り組むことが重要とのご指摘を踏まえ、強化策を検討する。
- ・2期目に入りこの2年間は、合言葉のように若者、特に女性に選ばれる高知を目指すということを書いてきた。これが成果につながってきているということであれば、今後もこの方向性で追求していく。

都会とは異なる高知の魅力発信

- ・東京圏での価格高騰などによる生活の厳しさから、高知が相対的に良い場所になっている可能性を認識。
- ・高知の強みを活かし、都会とは異なる生き方・暮らし方を選びたい層をターゲットとして施策を打つことが重要。

○結び

- ・大学との連携をはじめ、産学官民が一体となって、計画的に事業を進めることの重要性を再認識。
- ・新たな施策の打ち出しや既存施策の強化にあたり、こうした視点を踏まえ、粘り強く取り組んでいく。
- ・引き続き委員の皆さまには、ご示唆ご助言をいただきながら、全力で取り組んで参る所存。